



TITLE:

京大広報 No. 203

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

---

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 203. 京大広報 1980, 203: 17-30

ISSUE DATE:

1980-10-15

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209483>

RIGHT:

ファイル中には未許諾による非表示部あり.

# 京大広報

No. 203

京都大学広報委員会



防災研究所・白浜海象観測所の海洋観測塔 ー関連記事本文18ページー

## 目 次

京都大学市民講座の  
開催……………18

＜紹 介＞  
防災研究所・  
白浜海象観測所……………18

日 誌……………19

＜随 想＞  
一つのくさい話  
名誉教授 会田 雄次…20

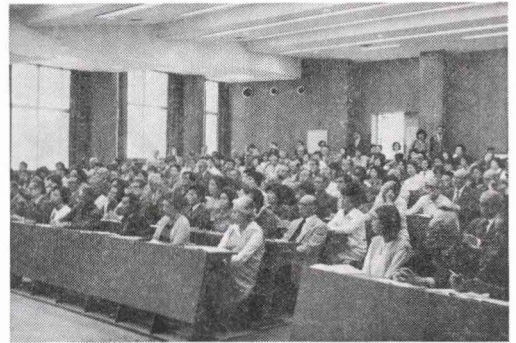
## ＜大学の動き＞

## 京都大学市民講座の開催

本学では、財団法人京大会館楽友会の協力の下に、広く一般市民を対象とする「京都大学市民講座」を10月4日から農学部 W100 講義室で開講した。

第1回（昭和54年）のテーマは「人間を考える」であった（京大広報 No. 183 参照）が、今回は第2回で「人間の生活を考える」をテーマに、人文、社会、自然の諸科学の領域にわたって次の日程で講義が行なわれている。

なお、受講者は申込総数 530 名から抽せんにより 330 名を決定した。



日 程	講 義	講 師
第1日 10月4日（土）	開 講 あ い さ つ	総 長 沢 田 敏 男
	儒 教 の 仁	文 学 部 島 教授 田 虔 次
	動 物 の 「道 徳」	理 学 部 日 教授 高 敏 隆
第2日 10月11日（土）	遺伝子工学と人間社会	化学研究所 教授 高 浪 満
	痛みをおさえる話	薬 学 部 高 教授 木 博 司
第3日 10月18日（土）	都市問題を考える ー経済学の立場からー	経 済 学 部 山 教授 田 浩 之
	町づくりの智慧と技術	工 学 部 西 教授 川 幸 治

## ＜紹 介＞

## 防災研究所・白浜海象観測所

沿岸海洋災害を防止・軽減するためには、暴風時の海況変動を正確に把握するとともに、平常時の沿岸海域の動態を究明しておかなければならない。この観点から、防災研究所では、昭和35年度施設新営費によって、和歌山県の田辺湾白浜沖（平均海面下の水深約5m、離岸距離約300m）に、我が国最初の海洋観測塔を設置して、観測研究を実施してきた。

昭和41年度には、白浜海象観測所として防災研究所の附属施設となり、翌年には白浜町堅田字畑崎に観測所用地を購入し、その後本館の建設、観測艇の購入、観測塔への電源ケーブルの埋設及び流速計検定装置の設置とそのための隣接地の購入などを経て、現在、991 m<sup>2</sup> の構内に写真のような

本館と、職員宿舎（2棟）がある。定員は助手1名及び技官2名である。

海洋観測塔の設置以来、実施してきた主要な研究課題とその概要は、次のとおりである。

(1) 強風時の波浪の特性：海洋観測塔の波高計と紀伊水道沿岸に設置されている他官庁の波高計による記録をスペクトル解析して、台風時の波浪の特性を究明し、波浪予知法の確立に努めている。

(2) 津波・高潮の特性：大阪湾に來襲する津波・高潮の予知に資するため、観測塔及び田辺湾や紀伊水道沿岸の潮位記録を解析して、これらの長周期波の伝播特性を究明している。

(3) 海洋・大気境界過程：風波の発生機構を調べるために、観測塔で波浪観測を行なうとともに、強風時の暖・冷水塊の流入に伴って、時間的・場所的に海水温が急変するいわゆる水温躍層



の混合と復旧の実態を明らかにしている。

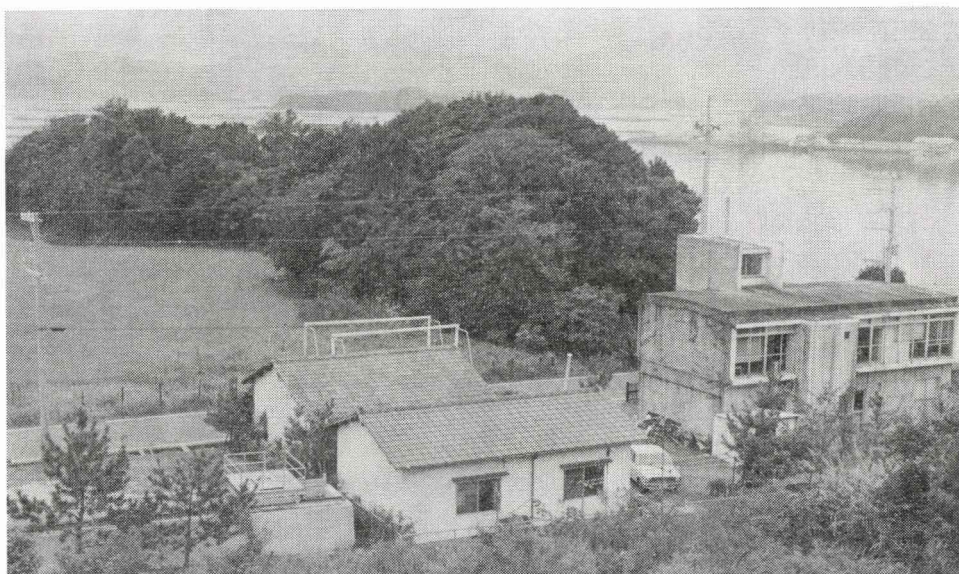
(4) 紀伊水道の海況変動：紀伊水道において、冬期、黒潮の暖水塊と瀬戸内海の冷水塊が接する所にできる海水の密度の等しい前線 (oceanic front) の発生を見出したので、その成因と維持機構を追求するとともに、その周辺地域に及ぼす気候的影響を地球的規模に比べて小さい、中規模のいわゆるメソスケールの大気・海洋相互作用の立場から研究している。

(5) 海浜過程の調査：紀伊半島には白良浜をはじめ多くのポケットビーチ（両端を岩礁や岬で囲まれた海浜）があるので、その幾何学的形状特性

をはじめ、変動機構を調べて、安定な自然海浜の特性を研究している。

本観測所では、海洋観測塔を基地として、防災研究所海岸災害部門、災害気候部門をはじめ、理学部、工学部の関係講座の協力を得て観測研究を進め、沿岸海象に関するかなりの研究成果をあげてきた。なお、本観測所では、観測海域の拡大に伴い、設置以来満20年を経過した海洋観測塔の更新、さらには移設をはじめ紀伊水道における観測調査を可能にする大型観測艇など観測機器の整備が望まれている。

(防災研究所)



白 浜 海 象 観 測 所

日 誌

(1980年9月1日～9月30日)

9月2日	体育指導センター管理運営委員会	大学図書館長 Maung Maung 氏来学, 附属
6日	安全委員会	図書館視察
10日	同和問題委員会	26日 建築委員会
〃	防火委員会	〃 発明審議委員会
17日	国際交流委員会	27日 学位授与式
〃	ドイツ連邦共和国 Alexander von Humboldt 財団事務総長 Heinrich Pfeiffer 氏来学, 総長ならびに関係教官と懇談	〃 タンザニア国 Dar es Salaam 大学 副学長 Nicholas Kuhanga 氏来学, 国際交流委員会関係教官と懇談
20日	中華人民共和国 中国科学院外事局 副局長 崔泰山氏来学, 総長ならびに関係教官と懇談	29日 組換え DNA 実験安全委員会
22日	環境保全委員会	〃 メキシコ国視察団団長 (Toluca 市長) Jose Antonio Muñoz Samayoa 氏外15名来学, 関係教官と懇談
24日	ビルマ国教育省高等教育局 中央図書館長 Thaw Kaung 氏および Mandalay 文理科	30日 評議会

